

# やまなし 月見里農業紀行

## 甲斐三堰 徳島堰

### 山梨の農業を支える 徳島堰

山梨県の西部には釜無川、御勅使川の流れによって作られた扇状地が広がっています。ここは梨北米の産地である韭崎市から、もも、すもも、さくらんぼといった果樹の生産が盛んな南アルプス市にかけての農業地帯となっています。これら地域へ釜無川から水を供給し、農業の礎となっているのが徳島堰です。

### 徳島堰の歴史

徳島堰は、江戸時代に江戸深川の商人、徳島兵左衛門によって拓かれました。彼はこの地を訪れた際に、「月夜でも焼ける（月夜の明かりでも水が乾いてしまう）」といわれるほど、広い農地が水不足となっていることを知りました。

兵左衛門は農地へ水を供給するために堰をつくることを計画しました。1665年、当時の甲府藩主・徳川綱重の許可を得ると、韭崎市円野町から水路を掘り始めました。

徳島堰の工事は、御勅使川など河川との交差点間や、固い岩盤など難所も多く、工事は困難を極め、兵左衛門は工事に多くの私財を投じたともいわれています。

理由は諸説ありますが、兵左衛門は2年後に山梨を去ることになり、堰の残りの工事は地元の郷長、矢崎又右衛門によって続けられました。そして1670年、円野町から南アルプス市白根地区へ至る全長約17kmの堰が完成しました。

完成した堰は、堰を拓いた兵左衛門の功績をたたえるために「徳島堰」と名付けられました。そして堰は現在まで2000ha以上の農地を潤し続けています。

(参考資料) 徳嶋堰組合編 徳嶋堰誌



徳島堰では春は桜や桃、菜の花が、夏は実りを迎えた果実が、秋は黄金色の稲穂と円野町のユニークなかかしが、訪れる人々を出迎えてくれます。みなさんも、四季折々の風景を味わいながら、歴史ある堰を歩いてみませんか？

### 甲斐三堰とは

山梨県には農業用に作られ、地域で守られてきた数多くの堰(水路)があります。その中でも代表的な堰は「甲斐三堰」と呼ばれています。徳島堰の他には、楯無堰(北杜市～甲斐市)、朝穂堰(北杜市～韭崎市)があります。

### 月見里(やまなし)農業紀行について

山が無い里は月がよく見えることから「月見里」と書いて「やまなし」と読み、山梨という地名の由来の1つとされています。

この月見里農業紀行のページでは、山梨県内の様々な農業用施設(ため池、水路、農道等)の様子を紹介します。

